

おおくま しげのぶ

大隈重信

明治・大正きっての傑物。育んだのは佐賀の風土と母の愛。



Ohkuma Shigenobu

持って生まれた政治家資質

佐賀藩士の大隈信保・三井子夫妻の長男として生まれる。幼名八太郎。大隈家は石火矢頭人(砲術長)を務める上士、いわゆるエリートの家柄であり、幼き八太郎もそんな父の背中を見て育った。

7歳で藩校弘道館に入学、優秀な成績を修めるも、その教育指針とも言える葉隠、儒学に反発、南北寮の大喧嘩の首謀者と目され、18歳で館を離れた。その後は蘭学寮へ入学し洋学を学ぶ傍ら、義祭同盟で尊王思想を学び、大政奉還を勧めるために副島種臣と共に脱藩して京に向かうなど、志士活動を行う。

明治新政府では外国事務局判事に任じられると、キリスト教徒の処分問題でイギリス公使パークスと激しい舌戦を繰り広げ、明治政府にこの人ありと認められるようになる。その後は大蔵卿、外務大臣、農商務大臣などを歴任し、グレゴリオ暦の導入、鉄道の敷設、貨幣制度の整備、東京専門学校(後の早稲田大学)の開校など、今日に残る様々な功績を残している。

そして1898年、板垣退助と共に隈板内閣を組閣、総理大臣になる。これは日本初の政党内閣と言われている。この内閣は半年程度で解散になるが、1914年には再び総理大臣に就任、2年後に79歳で解散となるが、これは総理大臣としては今日にいたるまで最高齢である。

【概略年表】

年	年齢	出来事
1838	天保9年	1 2月16日、大隈信保の長男として佐賀城下会所小路に生まれる
1844	弘化元年	7 藩校弘道館の外生寮に入る
1850	嘉永3年	13 父、信保が亡くなる
1854	安政元年	17 義祭同盟に加わる
1855	安政2年	18 弘道館で南北騒動が起こり、首謀者として退学させられる
1856	安政3年	19 蘭学寮に入る/枝吉神陽に国学を学ぶ
1861	文久元年	24 蘭学寮と弘道館合併、教授に/鍋島直正にオランダ憲法を進講
1865	慶応元年	28 長崎に、英学塾「致遠館」を設立、フルベッキより英語を学ぶ
1867	慶応3年	30 大政奉還を勧めるため、副島種臣とともに脱藩して京都へ
1868	明治元年	31 イギリス公使パークスに対する論客として起用され大激論
1881	明治14年	44 天皇の東北巡幸にお供する/政変によって参議を辞任
1882	明治15年	45 立憲改進黨を結成し総理となる/東京専門学校を開校。
1888	明治21年	51 外務大臣となる
1889	明治22年	52 来島恒喜に爆弾を投げられて負傷し、右脚を切断する。
1898	明治31年	61 憲政党を結成、第1次大隈内閣をつくる/11月内閣解散
1914	大正3年	77 第2次大隈内閣を組織する。(首相兼内相)
1922	大正11年	85 1月10日死去、1月17日、日比谷で盛大な国民葬が行われる

あなたにとって大隈重信とは？

誰からも愛された大衆政治家

大隈記念館 館長
古賀雄三さん



大隈重信は政治家として、教育者として、常に民衆とともにあり、信念の人でした。明治の初期、日本の近代化の為に色々な改革を行います。彼は「日本のため国民のために正しいことをしているのだから、必ず周りの人も分かってくれるはずだ」との信念の下、事前の根回し等をしませんでした。その結果として失敗も多かったと言われてます。そんな不器用さも大衆政治家としての人気の秘密かも知れません。彼の国民葬では150万人もの人から見送られ、その人気の高さが伺えます。

大隈重信を知る入門の一冊

「大隈重信」(西日本人物誌18)

数多い大隈の伝記の中でも語られることの少ない佐賀時代のいきいきとしたエピソードが満載で、後に傑物と言われた大隈の原点を知ることが出来る一冊。

大岡隆二郎 著/西日本新聞社 刊
1575円(税込)



- 《人物像》
- 全てを受け止める深い懐
 - 討論では負けない雄弁家
 - 要領良く、したたか

これぞ母の愛デア 勉強部屋の工夫とは？

12歳の時に父を亡くした大隈は、母親の愛を一身に受けて育つ。そんな大隈のために、母三井子が生家の二階に増築した勉強部屋には数々のアイデアが。部屋を明るくするため、大きな窓を設けつつも、気が散らないように、外が見えない高さに設計。また勉強机の前には大きな梁のすきまが。実はこれ、勉強中に居眠りするとここに頭がぶつかり、目が覚める、ちょっと乱暴な仕掛け。そんな母の期待に応え、大隈は藩校、弘道館で優秀な成績を修めることになる。



▲当時のまま残る大隈の勉強部屋。GWなどに公開。

南北分かれての大論戦 退学になったその理由

大隈が学んだ藩校弘道館では、武士道の倫理書と言える「葉隠」を志とした儒学が中心だった。大隈はそんな旧態依然とした教育に反発、改革を唱え大論戦。やがて南北の寮に分かれての殴り合いの喧嘩となり、首謀者として大隈は弘道館を退学処分になってしまった。しばらくして復学を許されるも、大隈はその頃開設された蘭学寮に進み、退学のおかげで望んでいた洋学を学べるようになる。人生何が辛いのか分からない。



▲弘道館時代に使用していた教科書(大隈記念館蔵)



▲佐賀を代表する銘菓「丸ぼうろ」

その右足は義足だった 失われた脚の行方

1889年、当時外務大臣の大隈は過激運動家に爆弾を投げつけられ、右足を切断する大怪我を負った。以降、義足で過ごす事となり、その義足は早稲田大学や大隈記念館などに残されているが、実は義足だけでなく、この事故で失われた本物の右足も残されているのだ。最初はアルコール漬けにして大隈邸に置かれていたが、維持費がかかるため日本赤十字看護大学に譲られ、さらに近年、里帰りを果たし、現在は大隈家の菩提寺にあるとの事。

スイーツ大好き大隈侯 東京出張した故郷の味

佐賀を通る長崎街道はシュガーロードも呼ばれ、様々な菓子文化が華開いた所。そんな中でも大隈の大好物だったのが佐賀銘菓、丸ぼうろ。明治29年の帰郷の際に惚れ込んだのだとか。東京でこの故郷の味を懐かしんでいると聞いた菓子屋「鶴屋」の主人は職人を連れて上京、東京の大隈邸内に窯を築いて、丸ぼうろをふるまった。佐賀から東京、何とも贅沢なデリバリーサービスだ。



▲30歳頃、和服帯刀姿の大隈(早稲田大学図書館蔵)



▲若き日の大隈(右端)

《ちょっと足を延ばして》

致遠館跡(長崎)
大隈が長崎に設立し、オランダ人宣教師フルベッキが教鞭を取った英語学校。佐賀藩士だけでなく多くの若者が学び、新時代に羽ばたいて行った。
📍長崎市五島町

大隈重信足跡探訪コース【約3時間】(移動約100分+観光散策約80分)

モデルコース 母と共に幼き大隈を育てた佐賀の生活を追体験する

<p>徒歩で約15分</p> <p>大隈記念館・生家</p> <p>地図▶P35 H-8</p> <p>大隈侯の生涯を知る記念館と、武家屋敷の面影を残す生家。維新の傑物の誕生地を踏み締め大隈巡りスタート。</p> <p>📍佐賀市水ヶ江2-11-11 🕒9:00~17:00 (休)12/29~1/3 🎫大人300円 小学生以下150円 ☎0952-23-2891</p>	<p>徒歩で約15分</p> <p>旧古賀家住宅</p> <p>地図▶P35 H-7</p> <p>旧古賀銀行の創立者、古賀善平の居宅。大隈も帰郷の際には、度々宿泊した。大隈気分でごろんとくつろぐのも一興。</p> <p>📍佐賀市柳町3-15 🕒9:00~17:00 (休)月曜(祝日の場合は翌日)、年末年始 🎫無料 ☎佐賀市歴史民俗館☎0952-22-6849</p>	<p>徒歩で約20分</p> <p>龍泰寺</p> <p>地図▶P35 G-8</p> <p>大隈家の菩提寺。大隈重信の墓参りで威徳を偲びつつ、受験・学問の大願成就を祈願してみるのがいい。</p> <p>📍佐賀市赤松町2-4 ☎0952-23-7247</p>	<p>徒歩で約10分</p> <p>鶴屋菓子舗</p> <p>地図▶P35 F-8</p> <p>大隈の好物、丸ぼうろの老舗。古文書から製法を割り出した幻の菓子「肥前ケシアド」など、お土産にも最適。</p> <p>📍佐賀市西島町1 ☎9:00~19:00 (休)元日 ☎0952-22-2314</p>	<p>徒歩で約30分</p> <p>高伝寺</p> <p>地図▶P35 F-9</p> <p>鍋島、龍造寺家の菩提寺。境内には幼い大隈が登って身体を鍛えた「八太郎橋」の木がある。</p> <p>📍佐賀市本庄町大字本庄1112-1 🕒8:00~18:00 🎫300円 ☎0952-23-6486</p>
---	---	--	---	--